

玉 じゃり

神社だより

第25号

編集・発行

長崎県神社庁 教化部

平成29年度版

長崎市上西山町19-3

TEL.095-827-5689

<http://nagasaki-jinjacho.or.jp/>

「正中」という言葉がありますが、神職ではない方にとつては聞きなれない言葉ではないでしょうか。

この意味を『広辞苑』で調べると、次のようになります。

- 一、物の中心
- 二、不偏不党
- 三、正しくあたること
- 四、南中に同じ

「正中」は神道の専門用語ではありませんが、神職に對し「正中」の意味を尋ねれば、誰もが「神様の通り道」と答えるのは、まず間違いないでしょう。

神道における「正中」とは、神座の正面中央を貫く所を指し、祭場では最も尊い所で、「神様の通り道」として、人間はみだりに正中を歩いてはいけなると言い伝えられています。祭典中、神職が社殿の中央を横切る際、頭を少し下げることがあります。これは、やむ

神様のとおりみち

を得ず正中を通らなければならぬ
い時に行う作法です。また、神職の基本的な作法には、歩き出す際に神様に失礼にならないよう正中から遠い方の下位の足から進める決まりもあります。

日本人は、古来より様々な自然現象を畏れ敬い、樹木や岩石、森、山等の自然を信仰の対象としてきました。現代では、神社といえ

鳥居や社殿が当たり前のように存在し、その中で祭祀が執り行われていますが、かつては社殿をもたない神籬・磐

境での祭祀でした。この長い歲月の中で、神社建築の発展と共に境内の装飾を伴うようになると神様のお通りになる道「正中」のように、神様への感謝や敬意の表現方法は多様化し、日本人のおもてなしの心へと受け継がれ、日々の平安を祈ってきたのです。





日本の神話

天の岩屋戸開き、八俣の大蛇退治、
因幡の白うさぎ。これらの神話の出
典であり、日本最古の歴史書である
『古事記』から『国生み』を紹介する。

天沼矛と淤能碁呂島

混沌とした世界が天と地とに別れ、別天神と呼ばれる五柱の神様、神代七代と呼ばれる七柱の神様が誕生した。神代七代の内の二柱、伊邪那岐命、伊邪那美命は高天原の神々から「この漂える国を修理め固め成せ」と命を受け、天沼矛を授かった。二柱の神様は、天地を結ぶ天浮橋に立って、天沼矛を下界に指し下して「こおろ、こおろ」と掻き回した。天沼矛を引き上げると、その先端から滴り落ちた塩の塊が積もり固まって淤能碁呂島が誕生した。これが最初の「国生み」である。

美斗の麻具波比と大八嶋

淤能碁呂島に降り立った二柱の神さまは、天之御柱を見立て「八尋殿」で美斗の麻具波比によって多くの島々が誕生した。

「あなにやし、えをとこを」
「あなにやし、えをとめを」

先ず伊邪那美命、次に伊邪那岐命が声を掛けた。最初に形の定まらないヒルコという神様が生まれ、次に生まれた淡島もまた定まらず失敗してしまう。高天原の神々に相談した二柱の神様は、男神の伊邪那岐命から言葉を掛けてやり直すことにした。すると国生みは成功し、淡路島、四国、隠岐島、九州、壱岐、対馬、佐渡、本州の八つの島が誕生した。

この後も多くの島々をお生みになり、その中に知訶島（五島列島）も含まれており、長崎県の島が三つも登場している。神々の歴史を語り継ぐ長崎県の島々は、日本の誇るべき記憶遺産である。

○対馬

『古事記』の国生みに登場する対馬の別名は、「天狭手依姫」。『延喜式』神名帳には二十九社が記載されており、西海道では最多である。豊玉姫命を祭神とする神社が多く、海神信仰が栄えた。命婦という巫女が伝承する「命婦舞」（国選択無形民俗文化財）が島内各地の神社で奉納されている。舞楽や神楽は盛んであったが、昭和以降に命婦舞を除いて全て途絶した。



○壱岐

壱岐の別名は、「天比登都柱」。『延喜式』神名帳に堂載される神社は二十四社、西海道では対馬に次いで二番目に多い。古代から朝鮮半島や中国大陸と日本を結ぶ中継地としての役割を果たした。特別指定遺跡「原の辻遺跡」をはじめ、神職が代々継承して島内各地の神社で奉納する「壱岐神楽」（国指定重要無形民俗文化財）等がある。



伊勢神宮新穀感謝祭

伊勢神宮では毎年12月に、新穀の豊かな稔りを感じする「新穀感謝祭」が行われており、全国津々浦々から多くの人々が参列されます。

本県からも一人でも多く参列できるように、この祭典に併せ「伊勢神宮参宮団」を実施しています。

新穀感謝祭ならではの特典御接遇もありますので、是非この機会に御参拝下さい。



内宮の宇治橋前

皇居勤労奉仕団

長崎県神社庁主催の皇居勤労奉仕団は、平成28年度に19回目が開催されました。これまでに約580名もの方々に参加頂き、長くも天皇皇后両陛下の御会釈を賜りました。

毎年9月中旬に5泊6日の日程で実施しており、内4日間は皇居及び赤坂御所での奉仕となります。皇居、赤坂御所への参内が許される貴重な機会ですので、皇室敬慕の念高き皆様のご参加をお待ち申し上げております。



第19回皇居勤労奉仕団(27名)

神棚プレゼント

氏神様、お伊勢様の御神札を祀る簡易神棚をプレゼント

応募方法 お近くの神社にご連絡下さい。

応募資格 神宮大麻(お伊勢様の御神札)をはじめてお祀りされる長崎県内在住の方。



「造営ニュース」



宇都宮神社うつのみやじんじゃ

宮司 鈴木 薫

鎮座地

佐世保市菟坂町(宮地区)

御祭神

豊城入彦命(第十代崇神天皇第二王子)

宇都宮大明神(宇都宮弥三郎通綱)

由緒は、南北朝の元弘二年に第九十六代後醍醐天皇第二王子尊良親王を守護して此の地に南向した宇都宮弥三郎通綱に始まり、その子通景が朝廷の命を受け、応安三年初代宮村地頭となり、下総国宇都宮の祖神豊城入彦命と宇都宮弥三郎通綱をお祀りしたのが起りである。明治七年宮村の守護神として村社に列される。

およそ七百年前に御鎮座以来、宮地区の安寧と住民の安泰幸福を祈り繋いでおり、その間先人たちの真心により幾度かの御造営修繕がなされてきた。当初、社殿雨漏りの為の瓦葺替え工事が計画され神社総代会より宮地区連合町内会に相談したが、「瓦葺替え工事ではなく、神社自体の傾きが酷いので下からやり直そう！我々の世代で再建しよう」とのお言葉を頂き、今回の社殿建替えの方向となった。

平成二十三年十二月に宮司を始め神社総代・各町内会長また夫々の諸先輩の方々を中心に建設委員会が設立され、平成二十六年一月末に旧社殿解体奉告祭、仮殿遷座祭を執行、二月下旬起工式、四月初旬に上棟式を終え、七月十六日本殿遷座祭を斎行した。

伊勢神宮と同じ仮殿遷座祭・本殿遷座祭を斎行し、氏子に御参加・御拝礼頂いた事は、氏子と神社との絆を固く結ぶ結果となり、さらに地域内の絆をより一層に深めることにつながった。

事業期間…平成二十三年十二月～二十九年三月(予定)
総事業費…約五千万円